干支恋奮闘記

万華鏡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
干支恋奮闘記

【Ｎコード】
Ｎ１０４５Ｚ

【作者名】
万華鏡

【あらすじ】
十二支＋αのほのぼほ（？）物語。基本は子×猫です。たまに違うカップリングも出てきます。視点はころころ変わります。一つ一つが短編仕様で、微妙につながっている感じにしていきたいと思います。ＳＳなので、結構短めにしました。ちょっとした時に読みたい人にお勧めです！

猫さんと子

「おーい猫！こっちの書類も頼む！」
「・・・わかった。」
「んな不満そうな顔すんなって！後で何か食べ物やるからさ！！」
「いらないよ。はい。」

そういってつみ上げられた書類をどんっと置く。
ちらりと先ほどまで話していた声のあるじを見ると、そこにはどこのしめきり前のまんがかだとでも言いたくなるような人物の後ろすがたがある。

こんなのがかみさまだなんて誰が信じるだろうか。
少なくともわたしが人間だったらきっとこんなかみさま信じないと思う。

「でもかみさまなんだよなあ・・・。」

「何か言ったか？」
「いや、なにも。」

「っつーか猫。お前今日は逃げなくていいのかよ？」
「？どういう意味？」
「どういうってお前・・・今日、子の奴が来るっつってたけど。」
「！！？」

子の奴＝ねずみ。

猫（わたし）のてんてき。
わたしはねずみの中でもとくに子の主がだいきらいだった。

・・・だって――――――――

「・・・っわたし帰るから。じゃあねっ。次からはもっとはやく言ってよ。」
「おーはいはい。じゃあなー猫。」

そんなかみさまの言葉はむししして、長いろうかを走って行く。

「何してるんですか？」

あともう少しでげんかんというところで、とつぜん陰からうでを引っ張られて外で出ることはできなかった。

「ね、ねずみ・・・。」
「こんにちは、猫さん。」

予想していた通り。わたしのだいっきらいな子の主だった。

「なにしにきたの。」
「もちろん、猫さんに会いに来たんですよ。」
「ようがないなら帰ってよ。」
「猫さん愛してます結婚しましょう。」
「・・・・・話をきいて。」

「嫌です。」
「・・・・・・。」

会ったらいつもこうだ。なにいっても聞く耳もってくれない。だから会いたくなかったのに・・・。

「じゃあねっ。」
「あ、ちょっと、待ってくださいよ・・・！」
「いや。さよなら。」

ばれないようにじりじりとうしろへ下がってもてる限りの力でうでを振り切って反対方向へとにげた。

・・・わたしは子の主がきらい。
だって、

だっていくらにげても、ひどい言葉を投げつけても、
『愛してます』なんていうから。
かんちがいしそうになってしまうから――――――――

「・・・まあ、そのうち好きにさせて見せますよ。」

《追いかける子と追いかけられる猫》

猫さんと子（後書き）

強制連行：、（ °▽ ° ）＝C＞（／；◇；）／　イヤァァァァァァ！！

→今のところの子と猫の万華鏡（作者）のイメージです（笑）

申と子のある会話

「・・・なあ。」
「なんですか？」
「お前、猫のどこを好きになったわけ？」

古くからの友達の申と話していたら、突然そんなことを聞かれました。
私の猫さんの好きなところ・・・多すぎて一日だけでは言い切れませんね。

まあ、敢えて一言で言うのでしたら・・・

「私は猫さんの全てが大好きで、愛してます。」
「・・・・・あ、そ。」

思ったことを素直に言っただけなのに、思いっきりひかれてしまいました。

自分から聞いてきたくせに、相変わらず失礼な奴です。ま、今までなら子が猫と仲良くなるなんて（仲良くはなってないけど）ありえないことでしたから、しょうがないことでもありますけど。

猫さんと知り合うまでは、確かに私も猫は嫌いでしたからねえ。今

となっては、そんな自分ですら忌々しいです。

「どうしていきなりそんなこと聞いてきたんですか？」
「いや～どうしてもおれの常識的に鼠が猫を好きになるってないとおもうんだよなあ。」
「実際ありえてるんですから、それが全てですよ。」

そう、それが全てです。愛に種族なんて関係ありません。

「・・・なんかさあ。お前と猫みてっと猫が哀れに見えてならねえんだよなあ。」
「そうですか？」
「そうだろ。あの無愛想きっと八割はお前のせいだぜ。」

「まあ、大丈夫ですよ。そのうち絶対に堕としてみせますから

―――ふふ、待っていてくださいね、猫さん・・・・・。」

「うっわあ・・・。」

《申は苦労人》

辰と猫、そして・・・

「辰ちゃんっ！ご飯食べに行こうよ～！！」
「嫌だよ面倒くさい。」

いつもの光景。朝から煩い亥をもう慣れたようにあしらって撒いてから、気分転換に（亥に見つからないように）外を歩いていたら、

「・・・あ、」
「・・・・・・・。」

猫がいた。

「やあ。」
「・・・おはよう。」

猫はほとんどいつも無表情。
・・・というかどこか悲壮感漂う雰囲気を放っている。多分、子のせいだと思うけど。

猫の気持ちはわかるよ。僕だってストーカーに悩まされているから。しかも亥はいつも騒がしいから苦手なんだよね。

「・・・・・じゃあ、これで。」
「あ、待って。どこ行くの？」
「やくそうを取りにだけど。」
「薬草、か・・・。」

猫のその言葉で、そういえば僕も欲しい花があるんだったと思い出した。

「僕もついていっていいかな？」

「・・・べつにいいけど。」

そうして猫についていくと、僕でさえ知らない穴場っぽいところにたくさんの薬草や花が咲いていた。

「へえ、こんなところあったんだ。知らなかった。」

「・・・で、何がほしいの。」

「ああ、えっとｎ「猫さん。こんなところで何しているんですか？」

・・・あ。」

「・・・・・・・・・・。」

突然、どこからか子が現れた。本当どこから来たんだろう。

まあ、いつもの事か。

「猫さん。私の誘いを断った挙句他の男と一緒にいるなんて酷いじゃないですか。」

「しらない。うるさい。」

「っさ、行きましょう。」

「はなして・・・！」

そしてそのまま猫は子に引きずられていく。

って、僕放置か。どうでもいいけど。

「――――あ、」

「？」

「辰さん。今後自ら猫さんに近づかないで下さいね？・・・・・・・・迷惑ですので。」

そして子は猫を引っ張ってどこかへ行ってしまった。

とりあえず猫のことはストーカー・・・もとい、変態に悩まされている者同士陰ながらに見守ることにした。

「猫も苦労してるよねえ・・・。」

《もはやストーカーですらない》

辰と猫、そして・・・（後書き）

ただの変態だと思います（笑）

神と猫とテレビ

「・・・これ、なに？」
「あ？見りゃあ分かんだろ。」
「いや、わかんないよ・・・。」

今日もかみさまの仕事を手伝いに屋敷のかみさまの部屋に行くと、部屋の中にいつもと違うものが置いてあることに気がついた。

それは四角くて立体的で・・・今までに見たことのないものだった。少なくともわたしは見たことがない。

「あー・・・そういやお前、人界に降りたことねえもんな。知らねえのも無理ねえか。」
「・・・で、これはなんなの。」
「テレビだ。」
「・・・てれび？」
「ああ。」

しょうじき言ってそんな名称だけのじょうほうじゃどういうのなのかわからない。

そんなことを言うと、かみさまはめんどうくさそうに立ち上がって『てれび』の前へ行った。

「ま、こういうのは説明するよりも実際見た方が分かりやすいだろ。」

そういいながら、てれびの右端にあったボタンらしきところを押した。

ピッという音と共に、急に騒がしくなった室内。

わたしは、てれびをぎょうししした。

かみさまの言うがめんという所に、人やさまざまなものがうつし出されていた。

「・・・で、これでなにするの？」

「なんもしねえけど。暇つぶしにちょうどいいだろ。」

「・・・・・本当ならいつもひまなんかないくせに。」

「るせえよ。最終的にはいつも提出期限間に合ってんだからいいだろ。」

「てつだうこっちの身にもなってよ、まったく。」

「へいへい。すいませんでしたねえ。あ、これヨロシク。」

そうして渡されたたいりょうのしょるい。

わたしはため息をついてそのしょるいを受け取った。

この後十二支のみんなもきて、てれびかんしょうかいみたいになって仕事がまったく進まなかったのはまたべつのお話。

《けっきょくてれびって何なんだろう》

神と猫とテレビ（後書き）

とりあえずいろんな情報を得るものだと自分は思ってます（笑）

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1045z/

干支恋奮闘記

2011年12月17日01時45分発行